

# urawagakuin high school

## 石巻・東松島交流活動

第99班 3.11追悼・伝承コース

2024.3.11~12

参加生徒による振り返りポートフォリオ



東日本大震災を経験して、東松島市では、震災で出た瓦礫や土砂などの廃棄物を分別して処理所に集めることで、リサイクル率が上がり、処理するためのお金がかからないことを知った。そして、手作業のため、震災で職を失った地域住民の雇用創出にもつながり、引きこもりにならないように考えられていた。被災した家屋等は、現場分別により14品目に分別され、可搬型の建設機械等を活用した一次処理作業する。そして、徹底した手作業での19品目分別による最終処理を行うのが東松島式震災ゴミリサイクル方法で、どの地域でも実現することができる取組として広がっている。

今回の交流活動で1番忘れられないのは、門脇小学校を見た時だ。唯一津波と火災が起きた小学校で白壁の美しい校舎は一夜で黒い校舎へと姿を変えてしまった。しかし、教壇を橋にして日和山へ避難し校舎の中にいたすべての人が脱出することができた。津波火災が迫るなか、教職員と住民の咄嗟の対応で命が救われたことを知り、避難場所や避難誘導の正しい判断が必要だと感じた。

この2日間で、命の大切さや地震や津波の恐ろしさ、自分たちの家族や仲間、地域の人との絆の強さがよく分かった。学んだことを伝承するまでが活動の1つなので、少しでも多くの人に伝え理解してほしいなと思った。(2年女子生徒)

urawagakuin high school

# 石巻・東松島交流活動

当日の記憶は薄らとあるのですが祖母の実家が岩手にあるため母が泣いていたのが印象に残っていました。私はまだ小さかったため地震が何なのかわからずとても怖かったのを覚えています。

1番最初にいった野蒜駅では地震で線路が曲っていたり当時使ってた物がそのまま残っていてすごい被害だなと思いました。駅にいた人は垂直避難をし全員助かったときいて安心しました。電車に乗っていた人は避難したりマニュアルとは違う行動をとったり臨機応変に対応していてその力を自分もつけたいとおもいました。  
(2年女子生徒)

小学校から何度も避難訓練をしてきたけど、その重要性を今まであまり感じる事が出来てなかったのので、門脇小学校などの被災の様子を念頭に置いて真剣に考えながら取り組みたいと思ったし、避難経路や防災グッズなどの確認をしようと思った。また、今ある日常は当たり前にあるものではなく、いつでもなくなる可能性のあるものだとすることを忘れずに家族や友達との時間を大切にしたいと思った。

(2年女子生徒)





urawagakuin high school

## 石巻・東松島交流活動



能登半島地震のこともあり、埼玉に住んでいるからといって、津波の被害を受けないと思っただけだと考えました。対策としては、帰省先や旅行先でも避難経路や地形を理解するようにしようと思います。今回考えたこと、感じたこと、情報を家族に伝えました。内容としては、津波による二次被害のことや、帰省先や旅行先での対策、そしてコミュニケーションが大事だと言うことが主です。これからも、家族だけでなく、友達にも伝えていこうと思いました。（1年男子生徒）

大きな地震が起きた場合に備えて家族で避難場所を話し合っ  
て決めておくことや防災グッズなどをあらかじめ用意しておく  
ことが大切だと感じた。埼玉県だから津波が来ないと安心する  
のではなく万が一に備えておくべきだと思った。  
今回のボランティア活動で学んだことを家族や友人に伝えてみ  
んなの防災意識を高めたいと思った。（1年女子生徒）



urawagakuin high school

## 石巻・東松島交流活動



参加する前、私たちが伝承していけることは、東日本大震災の被害を受けた地域や人々の存在であったり、忘れないでいて欲しいという現地の方々の思いであると思っていました。しかし、2日間の活動を経て、私たちが伝承できること、そして現地の方々が私たちに伝承して欲しいことはそれだけではないと感じました。なぜなら現地の方々の話からは、東日本大震災の辛い経験だけでなく、この経験を次に大地震が起こった時に役立てて行きたいという思いを受け取ることが出来たからです。

例えば、東松島市震災復興伝承館の方からは安全とされていた場所や避難でも津波にのまれてしまったり、逆にその場の判断で避難場所を変えた人々は助かったりしたという話を伺いました。そして、自分の命が何よりも大事だという言葉も何度も伺いました。門脇小学校では館長の方から津波で火災が起きることもあるというお話や、施設の方では東日本大震災の詳しい被害や被害に遭った方の言葉だけでなく、今後起こると想定されている大地震の詳細までもが展示されていました。私はこれらのお話や展示を見聞きして、東日本大震災という過去だけでなく、過去から現在にかけての様々な人々の支援や奮闘、そして未来のための知識や備えを私たちは伝承していくべきなのだと考えます。中でも、未来のための知識や備えは過去から学べるものがほとんどだと思います。今回の交流活動で学んだこともそのうちの一つですが、位置している場所が異なるため地域に合わせた知識ももっと情報を集めて身につけていきたいです。

(2年女子生徒)